三下『強く心にのこっていることを』（100ページ）

まなびリンク

書き直した後の文章

カメ太が動かない

中田（なかた）　惇介（じゅんすけ）

始め

「カメ太が死にそう。」
「どこ。」
「どこ。」
家族のみんなが、見に来ました。
「本当だ。」
冬のある日、ぼくのペットのカメ太がこうらにとじこもったまま、ぴくりとも動きません。どうしたのだろう。死んでしまったのかな。「カメ太が死んだら、家族がへってしまう。」そう思うと悲しくなり、「なんとか動いてほしい。だれか助けてほしい。」と思って、みんなに声をかけました。その間も、カメ太はこうらにとじこもったまま。ますます、心配になってきました。

中

すぐにずかんを出し、カメ太のために一生けんめい調べました。その間、カメ太のことが心配で、ぼくのしんぞうは、ドクドクしていました。早く調べなくては。あせって、ページが思うようにめくれません。
三十分ぐらいかかって、ようやくげんいんがわかりました。げんいんは、寒さでした。寒いからじっとしていたのです。ぼくは、みんなに大声でつたえました。
「ただ寒いだけなんだって。」
「そうなんだ。」
みんな、安心したように言いました。そして、
「どれどれ。」
と言いながら、集まってきました。カメ太を見たみんなは、口々に、
「よかった。」
「死んでなくてよかった。」
と言いながら、ほっとしていました。ぼくは、調べたかいがあったと思いました。
その後、カメ太を見ていると、カメ太が、
「心配をかけました。」
と、言っているようでした。

終わり

もうすぐ春です。カメ太も、もう少ししたら動き始めることでしょう。「かめは万年」というから、あと何百年も生きてほしいです。カメ太が動き始めた時、どんな顔をするのか、楽しみです。